



# 号外

2017.02 月号

民進党 民進プレス編集部  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町1-11-1  
電話 03-3595-9988(代表)  
メール press@minshin.or.jp  
URL https://www.minshin.or.jp/

## 【連絡先】

民進党参議院比例区第37 総支部  
参議院議員 大島九州男

□東京都千代田区永田町 2-1-1  
参議院議員会館910号室  
電話 03-6550-0910

☑福岡県直方市感田 1466-3  
電話 0949-28-8162



# 第193回 通常国会 開会

第193回通常国会は、1月20日に召集されました。会期は6月18日までの150日間です。



政府は、法案64本と条約19本、検討中法案等9件を提示しました。法案数は、会期中に衆院解散があった場合を除く通常国会では過去3番目に少なく、今夏には都議選も予定されており、与党内の「大幅な会期延長は難しい」などの声を踏まえて法案数を絞ったとの見方もあるようです。

今国会では、私、大島九州男は、文部科学委員会、決算委員会(筆頭理事)、東日本大震災復興特別委員会(理事)の所属となりました。

文部科学委員会においては、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関(専門職大学等)の制度を創設する法案が提出される予定です。「第四次産業革命」の進展と国際競争の激化に伴い、産業構造が急速に転換する中、優れた専門技能等をもって、新たな価値を創造できる専門職業人材の養成が急務であり、高等専門職業教育の新たな枠組みにより、社会の変化に対応しつつ、人材養成の強化を図る目的です。例えば、観光分野、農業分野、情報分野の成長分野などで専門職業人材が求められています。

私は、これまで専門職の人材育成にずっと取り組んでおり、初当選から十年かけてようやく法案提出まで実現しました。民進党の文科部門役員会では専門学校や短大側のヒアリングを提案しましたが、あらゆる機会を活用して党内議論を深めていき、政府与党に対し今後の委員会審議等を通じて、現場の意見を反映した現実的な制度になるように取り組んでまいります。

大島九州男



開会前の議員総会。蓮舫代表の挨拶

## 二〇一六年度 第三次補正予算

### 採決に反対も与党の賛成多数で成立

今回の補正予算は、災害対策など必要な部分もありましたが、税収の不足分を補うために約一、七兆円の赤字国債を追加発行したことは大きな問題と捉え、また、財政法に規定される補正予算の要件である義務にも緊要性にも該当しない経費も散見され、採決には反対としました。民進党は、二千億円もの赤字国債追加発行を抑制する動議案を提出しましたが、与党の賛同を得られませんでした。

民進党は、アベノミクスの失敗と安倍政権の財政運営をただしていくため、人を育て成長させる「人への投資」を中心とする経済対策を対案として掲げました。大島九州男は、これまでずっと取り組んできた人材育成に関する教育政策へ集中投資させるため、しっかりと党を支えながら活動してまいります。

## 文部科学省OB再就職あっせん問題

### 補正予算に対する合同部門会議

文科省事務次官の辞任に発展した文科省OBの再就職あっせん問題は、民進党の文科部門会議やムダ遣い解消プロジェクトチームで取り上げられています。

大島九州男は、法律違反したことは決して許されることではないと述べた上で、一方で民間企業としても専門家の人材が欲しいという現実があることを理解し、ただ規制を強くする形だけの対策ではなく、現実的な制度の実現に向けて根本的な対策を議論すべきとの意見を述べさせていいただきました。

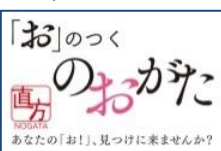


文科ムダ遣い解消 PT 合同会議

## 皆様の未来と安全を

大島九州男の生まれ故郷である福岡県直方市にて、成人式や消防出初め式に参加させて頂きました。未来の国と世界を担う若者に強い期待を寄せ、国民の命と財産を守る消防の方々に感謝を述べさせて頂きました。

国民の皆様が笑顔で暮らすことのできるように皆様のお声を国政に反映実現すべく委員会審議や政策実現する活動に奔走してまいります。



出初め式での挨拶



新成人と未来について語る

## 日本総合診療医学会 第45回大会

柔道整復師のセッションに座長として参加  
1月28日、東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートにて、日本総合診療医学会第45回大会が開催されました。

大島九州男は、職種別セッション「柔道整復師」に座長として参加させて頂きました。発表者の接骨院の先生方の日頃の経験や研究などの知見に直接触れさせて頂き、大変貴重な機会となりました。



## 昭和基地開設60周年記念式典

皆様の声を国政に!  
日本の南極地域観測事業の拠点である昭和基地が1月29日に開設60周年を迎え、国立極地研究所(東京都立川市)にて、記念式典及び祝賀会が開催されました。記念式典では、衛星回線によるテレビ会議システムを用いて、昭和基地にいる隊員とリアルタイムで質疑応答させて頂きました。隊員の楽しみの一つは日本にいる家族との会話という話を聞き、家族との交流の実情について質問させて頂きました。祝賀会では、大島九州男も挨拶の機会をいただきました。今後の南極地域観測事業の発展によって日本の科学技術の進歩や子どもたちの科学への夢につながることを期待し、党派を超えた支援に取り組む決意を述べさせて頂きました。

